

delete HOPE 2021

みんなの力で、 がんを治せる病気に

「deleteC 2021 -HOPE-」実施のご報告
2月4日ワールドキャンサーデーは「いいねの募金」と「HOPEオークション2021」で
がん治療研究者に寄付とエールを



deleteC 2021-HOPE- を開催

SPECIAL GUESTS



deleteC 2021 -HOPE- の録画はYouTubeからご視聴いただけます。
<https://www.youtube.com/watch?v=30BExEm3DBs&feature=youtu.be>



みんなの力でがんを治せる病気にするプロジェクト「deleteC」は2月4日のワールドキャンサーデーに先がけ、1月30日に「deleteC 2021 -HOPE-」をYouTube Live によるオンラインで開催しました。2019年2月4日にコンセプトを発表してから2年が経ち、共感し、伴走して下さる仲間が増え、応援の輪も広がってきました。その中で参画して下さる企業さんと協力して商品のロゴからCを消したものを発売して、その売り上げの一部を寄付金にする活動や、ラグビートップリーグと協力しての募金、SNSを利用した「deleteC 大作戦」などのイベントをこれまで行ってきました。

そんな私たちが最も大切にしているイベントが、昨年に続き開催するこの「HOPE」です。この言葉には、代表理事中島ナオの「少しでも希望に感じられるものをつくりたい。がんを治せる病気になることに向けての動き、希望の種でいいから見つけて感じたい、応援したい」という想いが込められています。

応援したいがん治療研究に研究費を補うための寄付金を贈り、今年は「どうしてdeleteCに興味を持ち、共感、賛同をしてくださったのか」＝「Why deleteC」をテーマに掲げました。出演者の方々にはそのストーリーを語っていただき、いつもdeleteCを応援して下さる医療関係者の方々、そして視聴者の方からもメッセージとしていただきました。



■ 応援したいがん治療研究の発表

deleteC では昨年 6 月に寄付を希望する医師、研究者の方を公募しました。選出にあたりがんの治療研究の最前線で働く医師の方、delete のメンバー、協賛企業様と選考委員会を作り、医学的、科学的に研究を見ることに加え、一般の市民の感覚からも研究を見て、今、本当に応援したい2つの研究を選びました。大槻さんには 200 万円、藤原さんには 100 万円の寄付金と記念のトロフィーをお贈りさせていただきました。さらに、分かりやすく発信発信するための動画コンテンツを deleteC プロデュースのもと制作し、イベント内で配信しました。啓発コンテンツについては今後の先生方の活動においてもご活用いただけます。



大槻雄士さん
慶應義塾大学 医学部
先端医療科学研究所 遺伝子制御研究部門
特任助教

テーマ
「がん特異的代謝機能に基づく
新規放射線治療併用増感剤の研究開発」



大槻さんは、5 年前に「がん撲滅」を目指し呼吸外科医からがん治療研究の道へ進みました。研究内容は、既存の薬を組み合わせることで今までにない治療効果を生み出す方法を研究するというものです。潰瘍性大腸炎の治療薬「スルファサラジン」や、かつて狭心症の治療に使われていた飲み薬「オキシフェドリン」が、がん細胞を死滅させる効果がある事がわかってきており、がん治療に有効かどうかを研究で検証してゆきます。

【選考理由】科学的根拠に裏付けられた新しい視点からの研究であり、実用化へのステップを踏んで開発が進められています。別の病気の治療に使われていた既存薬を使うため、安全性検証の過程を少なくできます。この研究が実用化されれば、革新的ながん治療法となりえます。早く実用化されてほしいという期待も込めて、deleteC として応援することを決定いたしました。



藤原紀子さん
東京大学医科学研究所附属病院
緩和医療・先端臨床腫瘍科
がん看護専門看護師・リサーチナース

テーマ
「診療研究への看護師参画について
一研究参加者を守り、研究の質向上の
ためのリサーチナースの普及・啓発」



藤原さんは、がん看護専門看護師として働いていらっしゃいます。日本のがん治療研究を加速させるためには、臨床研究における看護を理解した看護師＝クリニカルリサーチナースが必要とされていますが、それを学べる教材や環境が不足しており、そういった環境やプログラムを作るという取り組みです。「研究を支える取り組み」として応募をして下さり、そこを応援するのは「我々としても新しい試みです」と代表理事の小国士朗は説明しています。

【選考理由】 臨床研究に参加する患者さんを看護するナースには、研究に対する理解や知識が必要とされます。日本では、クリニカルリサーチナースの存在、つまり臨床研究のことも理解し、目の前の患者のケアも出来る看護師が圧倒的に足りていません。そのためリサーチナースを育成する必要がありますが、ナースが臨床研究における看護を体系的に学ぶ仕組みそのものがありません。本テーマを応援することで、国内の臨床研究の質向上につながる事が期待されると考え、deleteC として応援することを決定いたしました。

2 人の熱い想いやストーリーはdeleteC のメンバーの心にも響くものであり、希望や期待を抱かせてくれるものでした。代表理事の中島ナオは「私は実際に治療であったり、そういう研究に参加したり、患者の立場として受けている身ですけど、藤原さんのそういう言葉、また、外科医を経験した後に研究の道に進まれて、研究を進めていらっしゃる大槻先生のそういう想いと行動にすごく希望を感じますし、期待して応援していきたいと思います」と感想を述べています。

新プロジェクトの発表と各業界からの応援の声

『HOPE オークション 2021』を開催

deleteC では、がんの治療研究の応援の輪がさらに広がってほしいという願いを込めて、チャリティオークション『HOPE オークション 2021』(1月29日～2月4日)の開催を決めました。日本財団様のご協力を受け、日本を代表するアスリート15人が集結してそれぞれが想いのこもった貴重なアイテムを出品して下さいました。

岡田武史さんの呼びかけでサッカー界からは、井原正巳さん、長友佑都さん、内田篤人さん、小野伸二さん、岩政大樹さん、北沢豪さん、中田英寿さんの8人が参加。ラグビー界からも山田章仁さん(NTTコミュニケーションズシャイニングアークス)、クリスチャン・リアリーファノさん(同)、グレイグ・レイドローさん(同)、中村亮土さん(サントリーサンゴリアス)、岸岡智樹さん(クボタスピアーズ)、藤田慶和さん(パナソニックワイルドナイツ)、木村貴大さん(コカ・コーラレッドスパークス)の7人が協力して下さいました。この日は、アスリートを代表して岡田武史さんにリモート出演していただきました。岡田は、自身が代表を務めるFC今治の直筆サイン入りユニフォームを出品されています。そして、今回の協力していただいた経緯を「Why deleteC」として語っていただきました。



岡田武史さんの #whydeleteC

「僕をずっと支えてくれたコーチの奥さんが、若くして亡くなられて、それを見ていると何もできない自分が心苦しかったです。ただ、いろんな病気がある中でなぜかという、がんになると苦しくて耐えるだけの受け身なのに、この活動の中島さんのそれに向かっていこうとされている姿にすごく感銘を受けて。こんな方がおられるのなら何か僕らでできることがあればと思って、それでみんなに声をかけて、参加させてもらいました」。岡田さんが声をかけて集まったアスリートの方々もメッセージを寄せてくださいました。



井原正巳さん

「このたび、岡田武史さんからお声がけをいただき、これまで日本全国の多くの方々からサッカー界に大きなご支援をいただいたことに少しでも恩返し、お返しができればと思いこのオークションに参加させていただきました。がんの研究や治療方法がさらに進み一人でも多くの方が健やかな人生が送れるよう祈っています。みんなの力を合わせてがんを治せる病気にしていきましょう」



クリスチャン・リアリーファノさん(白血病を克服して豪州代表でもプレー)

「私にとって希望を感じる一品として、息子の名前の入ったスパイクを出品します。闘病していた時、息子にいつも励まされていたので、ラグビーに復帰した後、試合中も練習中も彼に励まされたことを忘れないように、また、彼のためにプレーできるようにと思いスパイクに彼の名前を入れることにしています。これまで練習や試合で使用してきた愛用のスパイクを出品させていただきます」



岩政大樹さん

「私も気が付けばアラフォーです。かわいい娘ができ、両親は年を取り、祖父母はがんで亡くなりました。私たちの命が未来へとつなげていくものであるなら、私は私で未来のために自分にできることをしていきたい。そこで今回は微力ではありますが、オークションに参加させていただきました。ワールドカップ南アフリカ大会、デンマーク戦のユニフォームです。試合には出られませんでした。私の選手キャリアの1つの到達点でした。しかし、今はもう手元にある必要はありません、ぜひ」

deleteC にとってアスリートの方々の応援は力強い限りです。代表理事の小国士朗も「出品して下さいましたのも感動ものですが、メッセージが届くたびにすごく感動して、アスリートの力、スポーツの力って、こういうこともあるんだなというのを実感しました」と述べています。また、医療現場にいる大槻さんと藤原さんもスポーツの力の大きさを強く感じたようです。「僕らだけじゃなくて色々な方々が、がんを治すという事に色々な形で力を使っているというところにすごく感銘を受けました」と大槻さん。藤原さんは「自分の大切なものを誰かの応援のために手放すってすごく勇気のいることだと思うんですけど、その想いというのがどんどんバトンタッチされて伝わっていくってすごく感動しました」と語っていただきました。リモート出演いただいた岡田さんからは「いつかは治る病気だと聞いたから一刻でも早く治るようになってくれればと感じました。この活動は素晴らしいと思うのでこれからも支援していきたいと思っております」と引き続きの応援を約束していただきました。



開催方法: インターネットオークションサービス「モノオク」にて開催 開催日時以降、特設サイト <https://www.delete-c.com/hope/2021/auction> よりアクセスしてください



■音楽の力でがん治療研究にエールを贈る『いいねの募金』



deleteC は新プロジェクトとしてアーティストの AI さんとコラボレーションした「いいねの募金」をスタートさせました。これは音楽の力でがん治療研究を応援していくという仕組みです。まずこのプロジェクトにあたり AI さんの新曲「HOPE」と deleteC が取材した医療現場の映像を組み合わせた、がん治療研究を応援するミュージックビデオ (MV) を制作しました。この MV で音楽を視聴して「いいね」と感じれば、ご自身で寄付金額を決め、募金サービス「Yahoo! ネット募金」を通じて寄付金を贈ることができるという仕組みです。

「いい音 (ね)」を聴いて「良い値 (ね)」を決めるという意味で「いいねの募金」と命名させていただきました。もちろん、無料での視聴も可能で、誰もが音楽を通じて、がん治療研究を応援できるというものです。「HOPE」の MV は 1 月 30 日の 18 時から AI さんの公式 YouTube チャンネルで視聴可能となっています。

そして、今回は deleteC アンバサダーとして AI さんにはスタジオにご登場いただき、ライブで新曲の「HOPE」と「Story」を披露していただきました。新曲の「HOPE」は AI さんが、「HOPE さえあればまだ次に進める」、「色んな HOPE が必要だと思う」と、2020 年にコロナ等で不安や悲しみに包まれた世界の人々に“希望”を歌で届けたいという想いを込めて制作された楽曲で、メンバーの心にも響きました。代表理事の小国士朗は「AI さんの歌を待っていた人もたくさんいたと思うし、医療者の方々の映像に AI さんの曲が乗ってすごい後押しになるだろうと思います」とコメント。中島ナオも「AI さんの歌の力というのは、自分なりに大好きで知っていたけど、生で聞いた時のこのパワーはなんなんですかね。一言、一言が本当に自分と重ねたりだったり、心に届いてきて、今日を迎えられて良かったなというのを感じました」と喜びを口にしました。さらに AI さんの歌の力は医療の現場の方々の心も動かしています。「本当に感動しました。すごく勇気をいただいた感じです」と大槻さん。藤原さんも「(歌詞の)ヘッズアップっていいですね。顔を上げて、希望がすごくあるなと思いました」と笑顔を見せてくださいました。

今回のコラボレーションは、代表理事の中島ナオを特集した NHK『ヒトモノガタリ』(2020 年 3 月放送) がきっかけでした。AI さんはそのナレーションをつとめ、その後も deleteC への応援を続けてくださいました。そして、「HOPE」の歌詞に込められた想いは、deleteC の「今なお、最前線で挑み続ける医師・研究者たちを応援したい」という願い、今回のイベントのコンセプトとも重なる部分が大きく、AI さんと deleteC との新しいカタチでのコラボが実現し、これまでになかった方向からがん治療研究を応援することが可能になりました。AI さんには「Why deleteC」についても熱い想いを語っていただきました。

AI さんの #whydeleteC

「シンプルですけど、協力しない理由がない。初めてこの話を聞いた時に、そういうことなら、どんどん協力したいと思った。やっぱり、世界中はつながっていると思っているし、これは自分に関係ないことだとは思えないですよ。そのうち自分だったり、家族や親友とか恋人とかにくることかもしれない。お互いに協力できることがあるのならそれは素晴らしいこと」



「いいねの募金」ページを開設



「いいねの募金」は日本最大級のインターネット募金サービス「Yahoo! ネット募金」の特設サイト <https://donation.yahoo.co.jp/detail/5304001/> で受け付けます。



■多くの方の協力で開催できた「deleteC 2021-HOPE-」



会の最後には、応援したいがん治療研究に選ばれたお2人に、アフリカローズという企業様から提供いただいた花束もお贈りしました。この9本のバラには、いつも思っています、いつも一緒にしようという意味があり、HOPE にぴったりあてはまるものです。大槻さんは、このイベントを振り返り「すごく皆さんの色々な感じられる時間で、今回、選んでいただいて光栄な思いです。これからもみなさんのホープになるような成果を届けられるように研究を進めていきたいと改めて思いました」と力強く語っていただきました。

藤原さんからは「去年、授賞された先生も、大槻先生もお話されていましたが、がんの研究はこんなに大変な状況でも歩みがとまっていない。応援する方々も歩みを止めていない。応援する事にもプライドを持って応援できるし、私は今回、応援していますと言われて、応援がこんなに心強いのかというのを本当に認識しました。まだまだ数は少ないですけど、これからリサーチナースたちが増えて、患者さんと一緒に、社会と一緒に未来の希望を作っていけたらと思います」と、うれしい言葉をいただきました。

今回の「deleteC 2021-HOPE-」は、多くの方々の応援があり実現することができました。アカデミーヒルズさんにご協力いただき虎ノ門ヒルズから、NHK エンタープライズさんの力をおかりして生放送でお送りしました。着用したマスクは、deleteC が誕生したばかりのことから応援してくださっている池内オーガニックさんが特別に提供してくださったものです。23 の企業様に協賛をいただき、企業様からの「Why deleteC」をまとめたVTR にも私たちは勇気づけられました。たくさんの視聴者の方々の応援の声も私たちには届いています。代表理事の小国士朗は「たくさんの、deleteC にご賛同していただいている皆さんの想いが1つ1つ込められた1時間半になりました。ありがとうございました」と感謝を述べました。

今回、私たちは、新たな2つのプロジェクトをスタートさせています。「この2つのアクションで300万円を目標に寄付を集めたいと思います。この皆さんのアクションで集まったお金が翌年のHOPE-2022- で使われていくことになります。皆さんのアクションをお願いします」と代表理事の小国士朗は、皆様へのご協力を呼びかけました。そして、代表理事中島ナオのdeleteC への想い「Why deleteC」で今年の「deleteC HOPE-2021-」を締めくくりました。

大槻さんの #whydeleteC

「もともと僕らの研究は、ガンを撲滅する治療、治せる病気にするということをテーマに研究していたけど、その活動の研究の中で、知人を通じてdeleteC というプロジェクトが本当に同じ目標を持って動いていることを知って、何か一緒にできないかなと思って、今回、応募させていただきました」

藤原さんの #whydeleteC

「がんは身近にあるけど、がんの研究というと遠いとか難しいみたいなイメージがあると思います。臨床は床（とこ）と書きますけど、ベッドサイド、つまり患者さんのいるところですよね。だから臨床研究そのものが患者さんとともにあるという状況です。ある患者さんがおっしゃっていたんですけど、その方はがんの患者さんで、臨床試験に入られていたんですけど、この研究の薬が自分に効果があったらと思うけど、研究で、もしその効果がなかったとしても、将来の自分のような立場に置かれた人の治療になるかもしれないとおっしゃっていたのがすごく頭に残っていて、そういう患者さんが今の治療を作っていて、今、参加している人が未来の希望を作っていて、私たちはその患者さんを応援したい、ケアをしたいということで看護師を増やそうとしています。そのためにはどんな未来があったらいいのだろう。こういう活動が大事だよと一緒に考える仲間が必要で、それは社会全体で色々な人で考えることが大事。deleteC さんじゃないと、と思ったのは、つなぐ、伝える、そして、応援し合うというところをものすごく大事にされていて、私たちのまだ数少ないリサーチナースを見つけて、信じて、理解して応援して下さっている。私たちも応援したり、応援し合ったりということが大事だと思いました」

さらに今回はdeleteC を応援して下さっている医療関係者の方からも「Why deleteC」の熱いメッセージをたくさんいただきました。ありがとうございました。

#whydeleteC

コロナ・ウィルスの蔓延によって、世の中は激変しました。しかし、がんもまた24hr 眠りません。コロナ感染を恐れてがん検診を控えたり、がん患者が病院受診をも控えるなど、心配な現象が数多く見受けられます。delete C の活動はこんな時こそ重要です。

公益財団法人 日本対がん協会 会長 垣添忠生

#whydeleteC

がんの研究にはたくさんの人、たくさんの時間、たくさんの費用がかかります。でも今の日本のがん研究は国と企業からの限られた資金でしか実施できていません。deleteC が新しい突破口になることを期待しています！

福島県立医科大学 腫瘍内科 主任教授 佐治重衛

#whydeleteC

deleteC のがん研究支援を応援します。研究は、これまでの医療を振りかえり、よりよい医療に繋げるために必要不可欠です。delete C のような思いのこもった研究支援は、研究者の心を揺さぶり奮い立たせます。がんの苦しみを減らし、克服するためにともに戦いましょう。

京都大学大学院医学研究科 腫瘍薬物治療学 教授 武藤学



中島ナオの#whydeleteC

「私はがんになり全然、大丈夫って言えない、感じる場面ばかりだったので、今を変えていきたいと思うようになりました。そして、実際に変えようと研究を進めている医師、研究者がいることを知り、その希望の種を応援していきたいと思いました。もっと負担にならない治療体制にしていこうという動きがあったり、5年前に受けられなかった治療が受けられたり、生活の変化や治療の進歩を肌で感じているからこそ、数年後、10年後の希望の種を全力で応援していきたいと思えました。辛さとともに医療の進歩も感じているからこそ、みんなで手繰り寄せたいと思いました。もっとすごいスピードで進みたいけど、アイデアが生まれて2年でここまで来ました。もっと大きなものにしたいけど、こんなにたくさんの応援をきょう集めることが叶っています。それは今、ひとりひとり、みなさんがいて下さるからです。これからもそれぞれの「Why deleteC」でアクションし続けてください。そして、一緒にどんどん手繰り寄せていきましょう。本日はありがとうございました。」

deleteC 2021 -HOPE- 協賛・協力

協賛企業：サントリー食品インターナショナル株式会社、株式会社バイオテック・ラボ、大鵬薬品工業株式会社、日本住宅ローン株式会社、イルミナ株式会社、株式会社ジャコラ、3H クリニカルトライアル株式会社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、株式会社ジャパンプロデュースサービス、株式会社サンシェフレラ、Varinos 株式会社、ピースマインド株式会社、株式会社中部日本プラスチック、株式会社リネアストリア、株式会社グラフィコ、大和証券株式会社、日本イーライリリー株式会社

配信協力：株式会社NHK エンタープライズ

会場協力：アカデミーヒルズ

オークション協力：日本財団、モバオク株式会社

その他協力：ユニバーサル ミュージック合同会社、ヤフー株式会社

SPECIAL
THANKS

deleteC 2021 -HOPE- の録画はYouTubeからご視聴いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=30BExEm3DBs&feature=youtu.be>



「がんを治せる病気にしたい」そのシンプルで強い思いから、deleteCは2019年2月に活動を開始いたしました。日本では毎年新たに100万人以上ががんと診断され、毎年37万人ものがんによって命を落とし、生涯で2人に1人ががんになると言われています。deleteCは、個人、企業、組織や立場を越え、ふだんの暮らしの中で誰もががん治療研究という希望の種を応援できる仕組みを作り、がんを治せる病気にする日を一日でも早く手繰り寄せる為、引き続き取り組んでまいります。

団体名：特定非営利活動法人deleteC

代表：代表理事 中島ナオ / 代表理事 小国士朗

理事 澤井典子 / 理事 稲垣慶典 / 理事 櫻庭喜行

理事 中村晋一郎 / 監事 瀧口徹

H P : <https://www.delete-c.com/>

Twitter : @deleteC_

Instagram : @project_deletec

Facebook : <https://www.facebook.com/deleteCproject/>

